

TOEIC IP テストの取り組み 選択科目「英語特論」と TOEIC IP テスト取り組み

宮奥 正道*

A Practice for TOEIC IP Test An Analysis of the Practice in the Class, 'English Seminar' and the Results of TOEIC IP Test

Masamichi MIYAOKU

Abstract

We have to admit the fact that TOEIC Test has been playing a very important role in the evaluation of the English teaching in universities and colleges in Japan, and it has also become a very important tool for the evaluation in the various workplaces not only to judge graduates' English ability in their job application but also decide whether to send employees' attachment in branch offices abroad or not. A certain target score in TOEIC test has already become, a criterion of JABEE (Japan Accreditation for Engineering Education). In order to encourage our students to try to reach the target (400 in this college), we opened an English Seminar as one of elective subjects for the 4th and 5th year students in 2006. We would like to introduce how we have been trying to persuade our students to reach the goal in the seminar. We would also like to analyze the result of the actual TOEIC IP test and the practice for TOEIC IP test in the seminar.

Key words: TOEIC IP, Listening Test, Reading Test

1 はじめに

近年、TOEIC テストの点数が、企業などで実践的な英語力を測る重要な指標となっている。また、高等専門学校においては、TOEIC テストは目標と定める一定の点数が、JABEE 認定の一つの基準にもなっていて、ますます高等専門学校の英語教育において重要な位置を占めるようになってきた。

そのような社会的なニーズに答えるために、本校では 2006 年より TOEIC テストの対策として、4、5 年生を対象に前期の「英語特論 I」と後期の「英語特論 II」が選択科目として開講された。

その取り組みの経過については 2009 年度と 2010 年度の本紀要において報告した。今回の本論文においては、第一に、2011 年 7 月から 2012 年 7 月までに実施した TOEIC IP テストの 4 回の結果の分析を行う。第二に、2012 年度前期「英語特論 I」の授業の中で「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4」を使って実施した TOEIC テストの演習の解答と、この授業の受講生が 2012 年 7 月に実際にうけた TOEIC IP テスト（本校を会場として実施できる TOEIC テスト）の結果を比較しながら、受講生の学力を分析する。第三に授業の中で、学生が実際に「TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4」を使用して回答した問題の結果を分析する。最後に、この授業の取り組みをより効果的にし、実際に TOEIC IP テストの点数を上げるための方略も考えてみたい。

2 TOEIC IP テストについて

2-1 TOEIC IP テストの受験者数の推移

下の表 1 に示されたように、選択科目で英語特論を立ち上げた 2 年間は受験者数が少なかったが、2009 年度から 80 人以上までになった。本科生では 4 年生と 5 年生の在学期間に、約半数の学生が受験

している計算になり、TOEIC IP テストの受験者数は2009年以降定着している。なお2012年度は年度2回の試験のうち、7月に実施した1回目の受験者の人数である。

表1 TOEIC IP テスト受験者数の推移

年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
本科生	22	20	32	64	65	65	32
専攻科生	2	9	13	23	19	25	2
計	24	29	45	87	84	90	34

2-2 英語特論受講者の TOEIC IP テストの結果の推移

表2 2011年1月実施 英語特論Ⅱ受講者の得点内訳

Listening		Reading		Total		L-R	
300以上	0	200以上	2	450以上	2	平均	84.47
275-299	1	175-199	0	400-449	1	中央値	90
250-274	3	150-174	4	350-399	6	最高	160
225-249	4	125-149	3	300-349	4	最低	-45
200-224	6	100-124	5	250-299	5		
175-199	1	75-99	5	200-249	1		
150-174	2	50-74	0	計	19		
125-149	1	49以下	0	最高	470		
100-124	1	計	19	最低	245		
100以下	0	最高	215	平均	338.2		
計	19	最低	80	中央値	320		
最高	290	平均	126.8	標準偏差	67.14		
最低	105	中央値	120				
平均	211.3	標準偏差	36.43				
中央値	215						
標準偏差	45.59						

表3 2011年7月実施 英語特論Ⅰ受講者の得点内訳

Listening		Reading		Total		L-R	
300以上	0	200以上	0	450以上	0	平均	79.21
275-299	0	175-199	0	400-449	0	中央値	75
250-274	2	150-174	1	350-399	5	最高	150
225-249	3	125-149	4	300-349	6	最低	15
200-224	5	100-124	11	250-299	5		
175-199	3	75-99	2	200-249	3		
150-174	3	50-74	1	200以下	0		
125-149	1	49以下	0	計	19		
100-124	2	計	19	最高	390		
100以下	0	最高	150	最低	210		
計	19	最低	70	平均	309.2		
最高	270	平均	115	中央値	300		
最低	115	中央値	120	標準偏差	51.82		
平均	194.2	標準偏差	18.35				
中央	205						
標準偏差	42.62						

表4 2012年1月実施 英語特論Ⅱ受講者の得点内訳

Listening		Reading		Total		L-R	
300以上	1	200以上	0	450以上	1	平均	89.76
275-299	0	175-199	1	400-449	1	中央値	85
250-274	1	150-174	1	350-399	2	最高	160
225-249	4	125-149	3	300-349	10	最低	35
200-224	3	100-124	10	250-299	5		
175-199	7	75-99	5	200-249	2		
150-174	5	50-74	1	計	21		
125-149	0	49以下	0	最高	450		
100-124	0	計	21	最低	225		
100以下	0	最高	185	平均	314.5		
計	21	最低	65	中央値	320		
最高	305	平均	112.4	標準偏差	54.9		
最低	150	中央値	115				
平均	202.1	標準偏差	110.1				
中央値	190						
標準偏差	36.3						

表5 2012年7月実施 英語特論Ⅰ受講者の得点内訳

Listening		Reading		Total		L-R	
275以上	1	175以上	1	450以上	1	平均	78.03
250-274	0	150-174	0	400-449	0	中央値	85
225-249	1	125-149	4	350-399	1	最高	140
200-224	7	100-124	6	300-349	3	最低	5
175-199	3	75-99	14	250-299	12		
150-174	8	50-74	3	200-249	10		
125-149	6	49以下	0	200以下	1		
100-124	2	計	28	計	28		
100以下	0	最高	275	最高	455		
計	28	最低	55	最低	195		
最高	280	平均	95.5	平均	269.1		
最低	115	中央値	90	中央値	260		
平均	173.6	標準偏差	24.76	標準偏差	51.62		
中央値	160						
標準偏差	38.26						

上記の表は過去4回の選択科目「英語特論Ⅰ・Ⅱ」の受講者の成績の内訳である。

毎回20名前後の学生がこの科目を選択するが、表5に示すように、2012年度前期は4年生の学生数が極端に多いこともあり、28名の学生が選択した。得点はその時の受講者により、かなりの差がある。

Listeningでは、4回の結果の中で一番良いのは表2で、平均点では211.3、中央値が215と高い。また、250点を超えた者は4名いる。逆に一番良くなかったのは表5で、平均で173.6、中央値160となっている。表2の2011年1月と比べずいぶん悪い。

Readingでは、4回の結果の中で一番良いのが表2で、平均では126.8中央値が120となっている。逆に一番悪いのが表5で、平均で95.5中央値が90であり、平均・中央値共に過去4回の試験の中で100点以下は初めてである。

合計点では、4回の結果の中で一番良いのが表2で、平均では338.2中央値320である。逆に一番悪いのが表5で、平均点269.1中央値260となっている。

またリスニングとリーディングの差を比較すると、最大は160点程度で、平均は80点程度であるが、

表2に示すように、最低がマイナス点、つまりリスニングよりリーディングの点数が良い学生がいたり、表5に示すように5点の差しかない学生もいた。一般にはリスニングの方がリーディングより良い点数を取るのであるが、学生によってはそうならない者もいた。

3 授業について

3-1 選択科目「英語特論」

選択科目の「英語特論」はTOEIC受験対策のための科目であり、ほぼ同じ内容で前期を「英語特論Ⅰ」後期を「英語特論Ⅱ」として、4年生、5年生を対象に実施している。この授業は2時間の授業と、2時間の自学自習からなっている。

授業ではTOEIC対策用の問題集（本年度は金星堂の「Get Ready for the TOEIC Test」）を使用してListening問題を「小テスト」と称して毎時間10分程度実施している。英語の基礎的な語彙や語法の復習のために旺文社の「2009年度版英検準2級全問題集」を教材として使っている。さらにTOEIC運営委員会の「TOEICテスト新公式問題集 Vol.4」を使い、毎回15分から20分程度時間を取って、各Partごとに細かく分け、問題を学生に解答させ、8回程度で1回分の試験が終わるようにして「練習テスト」と称して実施している。

自学自習の時間はコンピューターを使って、e-learningを中心にした学習をしている。2時間も1つの教材でe-learningを実施すると、学生はすぐに飽きてしまう。そのため、本校に導入しているALC NET Academyの他に、インターネット上無料で利用できる教材(COCET 3300、VOA Special English、NHK Worldなど)を利用している。学生がやりっぱなしで終わらないようにするため、ALC NET AcademyとCOCET 3300については、それぞれの教材について、あらかじめ授業の一番始めに配布した進度のシートに、自分がその日に取り組んだところを記入させ、そのシートを最後の授業で回収している。学生はそれまでの授業の中で、一文ずつ精読したり訳読したりする方法に慣れているため、200語程度のまとまった英文を素早く読んで英文の要旨を理解することが不得意な者が多い。そのため、この時間の後半では、毎回速読の教材として問題集「10分間英語トレーニング Level 1」(桐原書店)を使い、200語程度の英文を素早く読んで、問題に答える練習を行った。

3-2 授業の中で実施したTOEICの練習

2012年度前期に授業の中の30分～40分程度時間を費やして、「TOEICテスト新公式問題集 Vol.4」を使って、学生に問題を解かせてみた。昨年度まではpartごとに問題を解かせて自己採点をしていた。そのような方法であると、多数の問題を解いた後で、自己採点を学生にさせて、教師が問題の説明をすることになり、学生は個々の問題がすでに印象に残ってなくて、学習の効果が薄くなるのではと反省した。特に、TOEIC IPテストの結果からも分かるとおおり、例年に比べて学力が低い学生が多かった。そのため、今年度は1回目はPart 1については10問であるので1回通して実施したが、Part 2からは、Partを細かく分けて、(Part 2以降はPart 5までそれぞれ30問である。) Part 2では10問解かすごとに、自己採点をさせ、その後で教師が問題の解説をした。さらにPart 3とPart 4では6問ずつ学生に問題を解かせては、その度毎に自己採点、そして教師の解説を試みた。リーディングのPart 5では10問の設問ごとに、問題演習、自己採点、教師の説明をし、それ以降のPartは時間を15分から20分程度、練習問題を解く時間を区切り、自己採点をさせた。このように進めたので、1回通り終わるのに時間がかかり、4月から始めて6月下旬になった。

2回目は実際の試験に近いようにするため、Partごとに問題をして、学生に自己採点させた。その結果2回目はReadingの時間が十分とれず、2回目は全員が終了したのはPart 5までであった。

リスニングでは、400点を目指す受験者にはPart 2が一番得点獲得の中心になると予想し、自己採点の後で、解き方の説明に時間をかけた。

また同様にリーディングではPart 5が一番得点の獲得の中心になると思い、解き方の説明に時間をかけた。

3-2-1 公式問題集を使って実施したListeningの問題演習

表6は2012年度前期「英語特論Ⅰ」で公式問題集 vol.4 を使って実施した2回目のListeningの問題

演習の結果である。Part 1 から Part 4 までの合計点で順位をつけて、並べかえたものを基に表 6 を作成した。受講者 28 名の内、2 名については一部欠席して解答していない箇所もあるため、その 2 名を除いた 26 名の中から上位 5 名、下位 5 名を選ぶことにした。

表 6 2012 年度前期 授業で実施した 2 回目の問題演習の自己採点の結果 (Listening)

	Part 1 10問		Part 2 30問		Part 3 30問		Part 4 30問		Listening 100問
	正解数	正解率%	正解数	正解率%	正解数	正解率%	正解数	正解率%	正解数
平均	5.8	58.0	13	43.3	10.3	34.3	9.70	32.3	39.2
中央値	6	60.0	12	40.0	10	33.3	10	33.3	38
標準偏差	1.51		3.36		3.08		2.56		6.43
上位5名平均	6.8	68.0	18.2	60.7	11.6	38.7	13	43.3	49.6
下位5名平均	4.8	48.0	10.2	34.0	7.4	24.7	9	30.0	31.4
最高	9	90.0	22	73.3	19	63.3	17	56.7	55
最低	3	30.0	9	30.0	3	10.0	6	20.0	27

Part 1 は写真を見て、その写真の説明にもっとも適切な英文を、4 つの中から選択する問題である。この問題は容易な問題である。しかし、正解率は上位 5 名 68%と下位 5 名が 48%と今回は差が少ない。2 年前 Part 1 では上位 5 名は全問正解だったことと比べると、上位者の成績で平均 6.8 問が正解というのは明らかに成績が悪くなっている。

Part 2 は短い英語の単文の質問文が音声で提示され、それに対して 3 つの解答例が提示される。そのなかから正しい答えを選択する。上位 5 名で 60.7%下位 5 名で 34%と上位と下位でずいぶん差が出ている。

Part 3 は比較的長い英文の対話文が音声で提示され、それに対して 3 つの質問がある。各質問に対して、解答の選択肢が 4 つある。Part 2 に比べてかなり難しく感じられるが、上位 5 名は 38.7%から下位 5 名は 24.7%へと、上位 5 名、下位 5 名とも正解率は Part2 より低くなっている。特に上位 5 名の正解率が Part 2 に比べて低くなっている。

Part 4 は長めの英文が朗読され、それに対して 3 つの問題が提示される。この問題が一番難しいと思われる正解率も悪いと予想した。しかし上位 5 名では 43.3%、下位 5 名も 30.0%と正解率は Part3 よりも高くなっている。平均や中央値は Part 3 と Part 4 はほぼ同じ数字であり、受験した学生からすれば、全体的には同程度の難易度の問題であることになる。

3-2-2 公式問題集を使って実施した Reading の問題演習

表 7 は TOEIC テスト練習問題の Reading の内、Part 5 の正解数を合計し、合計点の高いものから 27 名を順番にならべた表を基に作成したものである。Part 6 については時間が足りなくて解答できていない者が多く除くことにした。

表 7 Part 5 の結果

	No.101-140	正解率%
平均	12.3	30.6
中央値	12	30.0
標準偏差	3.4	
上位5名	17.4	43.5
下位5名	7.8	19.6
最高	20	50.0
最低	5	12.5

Part5 は語法と文法の問題が中心であり、短い文の中にある空所に4つの選択肢から最も適切な語句を選ぶ形式の問題である。上位5名の平均の正解率は43.5%、下位5名の平均の正解率は19.6%と大きく差がついている。TOEIC IP テストで400点を目標とする学生はReadingではこのPart5の出来不出来で決まると予想していたが、その通りの結果になった。

4 練習テストの問題の分析

4-1 問題形式から

練習問題の形式から正解率に差があるかどうか調べてみた。表8はPart2の30問の問題を設問の仕方でも分類してみた。この問題形式によって、正解率にどのような差が出るかどうか調べてみた。平叙文で始まる問題が5問、普通の疑問文が9問、そしてWhatなど疑問詞で始まる問題が13問あり、これらの間に特徴的な差が出るのではないかと予想した。しかし、問題の形式によって差が出るというより、個々の問題によって大きく正解率が変換することが判明した。(紙面の関係で詳しい資料は割愛する。)

また、表9はPart5の40問を解答する品詞によって分類し、さらにそれぞれの品詞の問題を文法に焦点を当てた問題なのか語彙に焦点をあてた問題かに分けてみた。(動詞については分詞形や完了形、進行形の問題も含む)そして品詞ごとに正解率にどのような差があるのか、また文法と語彙の中にどのような差があるのかを分析してみた。しかし、これも個々の問題の難易によって正解率の差が大きく出て、品詞の差や文法・語彙といった差からは特徴的な差は出なかった。(紙面の関係で詳しい資料は割愛する。)

表8 Part2 (問題を形式別に分類)

Let's	1
平叙文	5
付加疑問	2
疑問文	9
What	1
When	2
Where	2
Which	1
Who	2
How	1
How much	1
Why	3
計	30

表9 Part5 (問題を品詞別に分類)

	文法	語彙	小計
形容詞	3	4	7
副詞	2	4	6
名詞	4	4	8
前置詞	1	3	4
代名詞	2	0	2
動詞	6	4	10
接続詞	0	3	3
小計	18	22	40

4-2 リスニングの問題例から

次に具体例をあげながら、どのような問題が正解率が高かったのか、低かったのかPart2を例に分析してみる。Part1については、写真を見て答える問題であり、紙面の都合上省略する。またPart3とPart4については、語られる文章が長くて、問題を解くときに様々な判断が働くことが予想される。そのため、どうして問題が解けなかったのかを正解と不正解から推測し分析することは困難であると判断し省略することにする。

下記の表は各問題ごとに正解者数がどのくらいの数あるかをまとめたものである。この表から一番正解者数が多いのが、解答した28名中で23名が正解(正答率82.1%)で1問しかない。正解者の数が13名が7問と一番多く、正解者が16名から11名の中に30問中19問が集中している。したがって問題別に正解者の数を見ると、正解者数は中位ぐらいかやや低い所に集まっている。

表 10 （解答者の数 28 名）

正解者数	問題数	正解者数	問題数	正解者数	問題数
23	1	16	3	9	1
22	0	15	2	8	0
21	0	14	3	7	3
20	0	13	7	6	2
19	0	12	1	5	1
18	1	11	3	4	1
17	1	10	0	計	30

4-2-1 Part 2 で正解率の高かった問題

Part 2 は単文を聞いて、質問に答える問題である。選択肢は A,B,C の 3 つの中から選ぶ問題であり、問題も選択肢も印刷されていない。また問題の () に W は女性の声、Am はアメリカ人、Au はオーストラリア人、Br はイギリス人、Cn はカナダ人の発音であることを示している。

問題 (W-Am) When do you expect to receive the next shipment?

(W-Br) (A) In January.

(B) To the warehouse

(C) Yes, we do.

正解 (A)

表 11

解答	A	B	C	無答	欠席	計
解答数	23	5	0	0	0	28
解答率%	82.1	17.9	0	0	0	100
上位5名	5	0	0	0	0	5
下位5名	4	1	0	0	0	5

この問題は When という疑問詞から始まっているので、この単語が聞き取れて、さらに選択肢の(B)と(C)が全く時間に関係のない答えであることが聞き取れば簡単に答えることができる。また、選択肢(A)(B)(C)とも短い言葉であるので、聞き取るのが容易である。

4-2-2 Part 2 で正解率が、上位と下位で差が大きかった問題

問題 (W-Br) Where's the nearest parking garage?

(M-Au) (A) It has five levels.

(B) We'll take my car.

(C) Just around the corner

正解 (C)

表 12

解答	A	B	C	無答	欠席	計
解答数	13	4	11	0	0	28
解答率%	46.4	14.3	39.3	0	0	100
上位5名	0	0	5	0	0	5
下位5名	2	2	1	0	0	5

この問題は Where で始まる問題なので場所を答えればよい問題である。上位 5 名は全員正解であるが、下位 5 名は 1 名しか正解していない。全体では(A)を選択した者が一番多い。(A)も(B)も場所とはまったく関係ない答えであるのだが、答えられなかった者は(A)の中の level が場所を表すと勘違いしたのか、(C)の Just around the corner という意味が取れなかったと思われる。したがって、語彙力の不足が原因で正解を見つけ出せなかった。

4-2-3 Part 2 で正解率が 50%の問題

- 問題 (W-Am) How do I get to the accounting office?
 (M-Au) (A) They have new manager.
 (B) Take the stairs to the third floor.
 (C) Can you help me count these? 正解(B)

表 13

解答	A	B	C	無答	欠席	計
解答数	9	14	5	0	0	28
解答率%	32	50	18	0	0	100
上位5名	0	5	0	0	0	5
下位5名	1	3	1	0	0	5

この問題を解くために必要なのは、まず How で手段を問われ、get to の意味が理解でき、the accounting office が場所を表す語句であることが分かることが必要である。そして、解答の選択肢から場所の移動のための手段をあらわしている(B) take the stairs という言葉が聞き取ればできる。全体で誤答が多いのは(A)である。これはやはり問題文が理解できなかったためであると思われる。

4-2-4 part 2 で正解率が悪かった問題

(その1)

- 問題 (M-Au) Could you lend me your dictionary?
 (W-Br) (A) It's over there on the shelf.
 (B) No, I couldn't send the letter.
 (C) He's leaning on the desk. 正解(A)

表 14

解答	A	B	C	無答	欠席	計
解答数	6	16	6	0	0	28
解答率%	21.4	57.1	21.4	0	0	100
上位5名	3	2	0	0	0	5
下位5名	1	3	1	0	0	5

正解は(A)であるが(B)を選択した者が一番多い。まず問題文の意味が理解できたかどうかであるが、推察されるのは lend, dictionary の単語を知っているかどうかである。選択肢の(C)は He で始まっていて全く関係がない。(B)が多かったのは設問の Could you で始まる文章の形式から、答えは Yes か No になることをまず判断し、I couldn't と文法の形式上整合性があるため、(B)を選んだものと思われる。(A)を答えるためには場面を想定し、意味を考えないといけない。

(その2)

- 問題 (M-Cn) The mail just came.
 (W-Br) (A) I like that game.
 (B) Will she be there?
 (C) Is there anything for me? 正解(C)

表 15

解答	A	B	C	無答	欠席	計
解答数	13	8	7	0	0	28
解答率%	46.4	28.6	25	0	0	100
上位5名	1	3	1	0	0	5
下位5名	2	2	1	0	0	5

正解は(C)であるが、(A)を答えた者が一番多い。これは mail というのを郵便ではなく e メールと勘違いして、それに添付してあったゲームと勘違いしたものではないかと思われる。そうであれば、これは単語の本来の意味を知らないことからくる誤解であり、この最初の文が理解できれば(B)はまった

く関係のない選択肢なので、正解(C)が解答できる。

4-3 Part 5について

Listeningの問題と異なり、Readingの問題を解くには、自分のペースで解くことができるため、問題を解く数の個人差が大きく出てしまう。そのため、Readingの問題については、全員解答できたのはPart 5だけである。そのためPart 6以降については分析できない。

Part 5は文法と語法の問題である。4-1で述べたように、問題の形式（品詞別、また語法か文法か）により、正解率の差があるかないか分からない。しかし、問題によって大きく正解率が異なる。

表 16 （回答者 27 名、欠席 1 名）

正解者数	問題数	正解者数	問題数	正解者数	問題数
15	1	10	7	5	4
14	1	9	2	4	1
13	3	8	4	3	2
12	0	7	9	2	1
11	3	6	2	計	40

表 16 は Part 5 の回答者 27 名が、各問題をどのくらいとけたのかを、正解者の数によって問題の数を示したものである。この表から分かるように正解者数が一番多いのが 15 名で 1 問だけである。正解者数に対する問題数の一番多いのは正解者数 7 に対して 9 問がそれに該当する。正解者数 11 名から 5 名の間で Part 5 の全問題 40 問の中で 31 問が該当することになる。

4-3-1 正解率が 50%程度の問題

(問題) Others _____ the weight limit are subject to additional shipping fees.

(A) exceed (B) exceeded (C) exceeding (D) excessive 正解(C)

表 17

解答	A	B	C	D	無答	欠席	計
解答数	1	5	15	6	0	1	28
解答率%	3.6	18	54	21	0	3.6	100
上位5名	1	0	3	1	0	0	5
下位5名	0	0	3	2	0	0	5

この問題を解くためには、文頭の others が主語であり、動詞が are であることを理解することが必要であり、others に続く句が the weight limit まであり、それが others を修飾していることを理解しなければならない。others を修飾できるのは(B)か(C)となるが、すぐ後ろの the weight limit が下線部にくる語の目的語になるので正解は(C)となる。

回答者を見ると(B)と(D)を選択した者がそれぞれ 5 名と 6 名いて、現在分詞の用法を理解できていない。

4-3-2 正解率が低かった問題

(その 1)

問題 Printer cartridges can be found in the supply cabinet _____ the file folders.

(A) at (B) from (C) with (D) along 正解(C)

表 18

解答	A	B	C	D	無答	欠席	計
解答数	12	10	3	2	0	1	28
解答率%	43	36	11	7.1	0	3.6	100
上位5名	3	0	1	1	0	0	5
下位5名	2	3	0	0	0	0	5

この問題は前置詞の問題である。この問題は the supply cabinet と the file folders の関係がポイントであり、supply cabinet, file folders という単語を知らなければ、解くのが難しい。また with の意味がここでは「～と共に」というよく知られた意味ではなく、「～が入っている」という意味に解釈しなければ解答できない。

(その2)

(問題) Because of its _____ for outstanding customer service, Mei's Hair Salon is the most popular business of its kind in the area.

(A) approval (B) estimation (C) probability (D) reputation 正解(D)

表 19

解答	A	B	C	D	無答	欠席	計
解答数	5	11	9	2	0	1	28
解答率%	18	39	32	7.1	0	3.6	100
上位5名	1	2	1	1	0	0	5
下位5名	1	3	1	0	0	0	5

この問題を解くにはまず選択肢の(A)～(D)までの単語の意味を知らなければならないが、本校の学生にとっては難しいと思われる。さらに outstanding, customer と難しい単語が続き、解答ができなくなったものと予想される。

5 TOEIC IP テストと問題演習の相関

2012年7月に実施した TOEIC IP テストと問題演習の解答との相関を調べてみた。

5-1 Listening について

表 20

	TOEIC L	Part 1	Part 2	Part 3	Part 4	練習計
TOEIC L	1					
Part 1	0.05728	1				
Part 2	0.30695	0.288877	1			
Part 3	-0.0251	0.029097	-0.01699	1		
Part 4	0.25058	-0.06636	0.568227	0.006567	1	
練習計	0.26085	0.35277	0.799	0.480061	0.6670818	1

上の表から TOEIC IP テストと相関が一番高いのが Part 2 でありであり 0.306 であるが相関はあまり高くない。意外であったのが Part 1 との関係で 0.057 となっていて、相関はないと言える。Part 3 に関してはマイナス 0.02 となっている。この理由として、Part 3 は問題としてあまりに難しく試験を受けた学力がその試験の点数に反映していないものではないかと推察される。

5-2 Reading について

表 21

	TOEIC R	Part 5
TOEIC R	1	
Part 5	0.22868	1

TOEIC IP テストと Reading の Part 5 との相関は 0.22 とあまり相関があるとは言えない。Part 6 や Part 7 までのデータがないので、この相関だけでは実際のテストと問題演習との関係については分からない。

6 結論

本研究においては、過去4回のTOEIC IPテストの受験者のテストの成績を紹介した。さらに、2012年度前期の授業「英語特論Ⅰ」の中で実施したTOEICテストの受験対策として利用した公式問題集Vol.4の自己採点の問題の得点を分析した。そしてどの問題が正解率が高いのか、あるいは低いのか、その理由を推察してみた。最後に実際のTOEIC IPテストと問題演習の相関を調べてみた。

選択科目の「英語特論Ⅰ・Ⅱ」を選択する学生の学力が毎回異なり、授業の中での取り組みがどの程度実際のTOEIC IPテストに生かされているのかつかみにくい。2010年度に行った調査では、授業で使った受験対策の問題集は異なるが、問題演習と実際のTOEIC IPテストの結果と高い相関をしめしていた。今回は英語特論の選択者の学力が過去4回の中では低いため、実際の試験では運にまかせてマークシートに記入しているものが何名もいるのを目撃した。英語特論の受講者でTOEIC IPテストで、400点以上も取った者は1名しかいなくて、350点以上取った者は400点以上を取った1名を含めても2名しかいない。つまり、この2名の学生以外はTOEIC IPテストの受験対策をする前に、英語の基礎学力をつけることのほうが大切である。

授業の中で実施したTOEICテストの練習問題の分析から分かったことについて次に述べる。

① **Listening** の **Part 2** では、問題の形式だけにこだわり、問題の意味を考えて質問に答えない者が多数いて、誤答を答えてしまう。やはり形式だけでなく、問題の意味も同時に考えないといけない。

またWhーなど疑問詞で始まる問題はそれ以外の問題よりも解きやすいと予想し、分析を試みた。疑問詞で始まる問題の正解率がそれ以外の問題よりも高いとはいえなかった。これは先行研究などの結果とも異なる。

② **Reading** の **Part 5** については、基礎的な文法が理解できていないために問題を解くことができない者が多数いた。さらに単語力が不足しているために文章がよく理解できず、いきおい運にまかせて問題を解く者が多数いた。

参考資料などに、TOEICテスト対策について、具体的な方略が述べられていて、授業の中でもいくつか試みたが、2012年度前期の英語特論受講者については、TOEIC IPテストの結果や、授業の中で実施した問題演習の分析の結果から、学校で実施するTOEIC IPテスト受験の方略を指導する前に、基礎的な文法の学力や、語彙力をつけなければならないという皮肉な課題が明確になった。

7 参考資料

井上治(2008) 「TOEIC テスト初級者のためのリスニング・セクションパート2 攻略法再考 — 近畿大学経済学部の TOEIC テストへの取り組みとともに—」『生駒経済論叢』 第6巻第2号, pp.185-201

小池生夫(1993) 『英語のヒアリングとその指導』東京、大修館書店

小寺光雄・吉田三郎(2007) 「TOEIC 指導における e-learning 利用の効果について」『福井工業高等専門学校研究紀要.人文・社会科学』 No.41 pp.13-21,

竹蓋幸生(1984) 『ヒアリングの行動科学』東京、研究社

田辺英一郎(2008) 「高専4年次における TOEIC 指導」『鶴岡工業高等専門学校研究紀要』 No.43, pp.57-60

吉田研作(1989) 『英語リスニング上達の方法』東京、Japan Times

財団法人国際コミュニケーション編(2009) 『TOEIC テスト新公式問題集 Vol.4』東京、TOEIC 運営委員会

Dörnyei Zoltán (1995) “On the Teachability of Communication Strategy” *TESOL Quarterly* vol.29 No.1 pp.55-85

